

▶14日 金曜

出エジプト



16:21 彼らは、朝ごとに、各自が食べる分だけ、それを集めた。日が熱くなると、それは溶けた。

16:22 六日目には、彼らは二倍のパン、すなわち、ひとり当たり二オメルずつ集めた。会衆の上に立つ者たちがみな、モーセのところに来て、告げたとき、

16:23 モーセは彼らに言った。「主の語られたことはこうです。『あすは全き休みの日、主の聖なる安息である。あなたがたは、焼きたいものは焼き、煮たいものは煮よ。残ったものは、すべて朝まで保存するため、取っておけ。』」

16:24 それで彼らはモーセの命じたとおりに、それを朝まで取っておいたが、それは臭くもならず、うじもわかなかった。

16:25 それでモーセは言った。「きょうは、それを食べなさい。きょうは主の安息であるから。きょうはそれを野で見つけることはできません。」

16:26 六日の間はそれを集めることができませぬ。しかし安息の七日目には、それは、ありません。」

16:27 それなのに、民の中のある者は七日目に集めに出た。しかし、何も見つからなかった。

16:28 そのとき、主はモーセに仰せられた。「あなたがたは、いつまでわたしの命令とおしえを守ろうとしないのか。」

16:29 主があなたがたに安息を与えられたことに、心せよ。それゆえ、六日目には、二分のパンをあなたがたに与えている。七日目には、あなたがたはそれぞれ自分の場所にと

どまれ。その所からだれも出てはならない。」

16:30 それで、民は七日目に休んだ。

16:31 イスラエルの家は、それをマナと名づけた。それはコエンドロの種のように、白く、その味は蜜を入れたせんべいのようにあった。

16:32 モーセは言った。「主の命じられたことはこうです。『それを一オメルたつぷり、あなたがたの子孫のために保存せよ。わたしがあなたがたをエジプトの地から連れ出したとき、荒野であなたがたに食べさせたパンを彼らが見ることができるために。』」

16:33 モーセはアロンに言った。「つぼを一つ持って来て、マナを一オメルたつぷりその中に入れ、それを主の前に置いて、あなたがたの子孫のために保存しなさい。」

16:34 主がモーセに命じられたとおりにである。そこでアロンはそれを保存するために、あかしの箱の前に置いた。

16:35 イスラエル人は人の住んでいる地に来るまで、四十年間、マナを食べた。彼らはカナンの地の境に来るまで、マナを食べた。

16:36 一オメルは一エバの十分の一である。

ここでは聖なる安息日のことが表されています。安息日にもパンを集めないと心配な人がいたようです。しかし神様はその日は神様にささげるように命じておられます。聖日に神様に従えない人は他の日にも従えないでしょう。聖日はその神様への信頼と従順を表すものです。

また安息ですから、私たちのたましいの休みでもあります。その日は生活の労苦は神様に預けて、休むべきなのです。そのようなとき、神様はしっかりと生活を守ってくださいます。

それらの子孫に残すように神様は命じられました。なぜならそれはイエス様とみことばを表すからです。主に信頼して命令を守り、その結果安息と祝福を得ましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

